

資料 A

みよし市教育振興基本計画の推進に係る 平成30年度の課題・提案等まとめ

(1) 平成30年度

年間2回の推進委員会における各委員からの意見・提言等

(2) 平成29年度

学識経験者による意見～教育委員会点検・評価より～

令和元年6月

みよし市教育委員会

1 子育て支援

<p>【関連する重点施策】</p> <p>作戦 1 「子育て総合支援センターでの交流・相談活動の推進」</p> <p>作戦 2 「放課後児童クラブによる子育て支援の拡充」</p> <p>作戦 3 「家庭教育力向上のための啓発活動の推進」</p>	
<p>(1) 平成30年度 年間2回の推進委員会 における各委員からの 意見・提言等</p>	<p>□ 児童クラブが時間延長となり、午後7時まで子どもを預けられる。ハード面が整い、親は安心して働くことができる。一方で、親子のふれあいの時間が短くなり、親子関係が希薄になってしまうのではないかという心配がある。子どもが荒れないような関わり方等、親に気付いてもらえるような策も考えていかなければならない。</p>
<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>⇒ 子育て支援や家庭教育支援については、ともすれば子育てや家庭教育への行政的な介入となることも懸念されるため、「家庭教育における現状と問題点」や、「子育て支援の要望」、「放課後児童クラブへの要望」については、できるだけ丁寧に「現状や問題点」を把握し、また個別に「要望」を聞き取るなどして、今後の課題の検証をすすめる とよい。</p>

□課題 ⇒提案

2 個別支援、家庭支援、幼保小中連携

<p>【関連する重点施策】</p> <p>作戦 4 「困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実」</p> <p>作戦 10 「個別の支援を要する子どもへのサポート体制の充実」</p>	
<p>(1) 平成30年度 年間2回の推進委員会 における各委員からの 意見・提言等</p>	<p>□ 相談を受ける場について、市は情報を発信しているつもりでも、実際は市民や保護者に十分伝わっていないのではないか。</p> <p>⇒ PTA や父母の会で教育センターなどの施設を見学する機会を設けてはどうか。</p> <p>⇒ 相談機関については、子どもを通じてでよいので、過剰なくらい宣伝や広報、文書での案内を繰り返すとよい。</p> <p>□ 未就園の子どもがいる家庭は、貧困率の調査の対象となっていない。こうした家庭に目を行き届かせていく必要があるが、相談に来るのを待つだけでなく、こちらから出かけて行ってアウトリサーチしていかないと、どういう支援を必要としているのかがつかめない。乳幼児の時期に家庭の課題や支援の必要性を捕捉しておけば、小学校に上がる段階できちんと繋がっていくと考えられる。そのために、学校教育と福祉との隙間に光を当てる議論を行い、施策化していくのはどうか。学校教育課と福祉課、健康推進課、保健センター等との連携が必要となってくる。</p> <p>⇒ 教育センター学びの森での相談体制について、相談者が来るのを待つだけでなく、出かけて行って支援が必要な人の相談に乗る仕組みはつくれないか。</p> <p>⇒ 相談したい人がいたら、その人たちすべてを受けられるだけの豊かな人材を育ててほしい。みよし独自でやれるのであれば、予算を教育に、学校に人材が行き渡るように計画に盛り込むべき。</p>
<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>⇒ 個別のニーズに対応する専門的支援員・指導員の各校への配置（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや日本語教育指導員など、場合によっては常勤での配置など）も検討される必要があるのでないか。</p>

□課題 ⇒提案

3 地域と学校の協働体制

【関連する重点施策】

作戦20 「学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集」

(1) 平成30年度
年間2回の推進委員会
における各委員からの
意見・提言等

<地域と連携するための体制づくり>

- ⇒ 県内で地域学校協働活動に取り組んでいる市町に、実際に行って話を聞くと、資料だけでは分からないことに気付くことができるのではないか。
- ⇒ 教職員が12校連携していることに倣って、保護者ボランティアも12校が連携して、自分の子どもがいる学校だけでなく、他の学校にもボランティアに行けるような仕組みがつかれないか。
- ⇒ ボランティア人材の整備を進めていくことが必要ではないか。
- ⇒ 地域からは、どんなことができるかは言えないが、学校からどんなことをしてほしいか出してもらえば、「それならできる。」と答えられる。そうして徐々に地域からも「こんなことできるよ。」と出してもらおうような流れを作っていくとよい。

<地域コーディネータに期待すること>

- ⇒ 地域コーディネータがいれば、学校が支援してほしいことと地域の人が「こんなことできるよ」という双方のニーズを一致させられるのではないか。実際にコーディネータが間に入って、顔と顔を合わせて調整することが大切なのではないか。
- ⇒ 中央図書館に登録している読み聞かせのボランティア団体は4団体しかなかったが、小中学校で読み聞かせを行っている団体の代表者と連絡を取り合い、お話フェスティバルが盛況となった例がある。地域コーディネータがそうした連絡役になると、うまくいくのではないか。
- ⇒ 地域コーディネータを配置したら、その方には研修を積んでもらって、実際に機能していく人材に育てていく必要があるのではないか。
- ⇒ 地域コーディネータは、地域のことも学校のことも良く知っている人がよい。そして、コーディネータだけでなく、コーディネータを支える役割の人が数人いて協力できるとよい。

<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>⇒ 「市民への学校ボランティア制度の周知強化」を進めながら、令和元年度には「地域コーディネータによるボランティアの派遣モデル実施」を行い、令和2年度から「地域コーディネータの配置促進」を行う計画となっている。日本国憲法第26条の教育を受ける権利の理念からすると、地域コーディネータはモデル校のみの配置でとどまるのではなく、適宜配置を促進し、将来的には全市的に配置されることが望ましい。</p> <p>⇒ まずは学校にとっても保護者・市民にとってもニーズが高い資源回収、また着実な歩みを進めているみよし未来塾からその充実を図ることが望ましいのではないか。</p> <p>⇒ みよし未来塾のさらなる充実のため、事業の定期化、実施場所の拡大、居場所機能と学習機能の両立を図ることで、学びにつまずく子どもを一人でも減らすことが期待される。</p>
---	--

□課題 ⇒提案

4 教員の働き方改革

<p>【関連する重点施策】</p> <p>作戦 5 「教職員の資質向上への取組」</p> <p>作戦 13 「12校の連携強化による教職員の資質向上」</p> <p>全 施 策 「I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる</p> <p>6 (3) 信頼される学校づくりの推進 ウ 業務の効率化と精選」</p>	
<p>(1) 平成30年度 年間2回の推進委員会 における各委員からの 意見・提言等</p>	<p>⇒ 働き方改革をしながら、子どもにとって楽しい学校。教職員にとって働きやすい学校にしていくにはどうしたらよいかを盛り込んだ施策に取り組んでいただきたい。</p>
<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>□ 教職員が抱えている「事務的負担」とはどのような状況にあり、どのようにすれば改善可能なのかについて、検討を開始されたい。</p> <p>□ 教員の多忙化解消、部活動にない競技へのニーズへの対応から総合型地域スポーツクラブ（作戦⑩）のいっそうの推進・充実という課題に取り組むことが糸口となる。</p> <p>⇒ 体力向上施策（作戦⑨）における「学習カード」や「ウォーミングアップドリル案」のように、作戦⑤から⑧においても、各学校での教材作成の負担軽減となるような施策が検討できるように思われる。</p>

□課題 ⇒提案

5 生涯学習・みよしの歴史や文化の発信

【関連する重点施策】

作戦 1 4 「サンライズの生涯学習拠点化の推進」

作戦 1 5 「地域や自主的サークルによる生涯学習の推進」

作戦 1 7 「歴史民族資料館展示資料の充実」

作戦 1 8 「サンライブでの充実した図書館サービスの推進」

(1) 平成30年度
年間2回の推進委員会
における各委員からの
意見・提言等

<生涯学習講座（作戦14）について>

□ サンライブに「お話の部屋」ができた。お話ボランティア4団体の40名くらいが活動している。水曜日のお話の時間に、多いときには20組の参加があるが、少ないときは少ない。小さい子ども向けだけでなく、小学生向けの内容も考えるべきではないか。

□ 交通不便者が参加できる仕組みが必要ではないか。

⇒ 生涯学習講座の受講者数が平成26年度から減少している理由や、平成32年に4500人という策定当時を立てた目標について、今後検証のうえ、中間見直しを迎えるとよい。

□ 成果指標について

⇒ 成果指標を受講者数としているが、市民のニーズに応じた講座が開催できているかということに視点を置いた指標に変えていく必要があるのではないか。

<作戦15の指標について>

⇒ 生涯学習活動登録団体数が成果指標として上げられているが、サンライブの登録団体も別にあるので、中間見直しの際は、どのような登録団体があるのかを明確にした上で指標を決めていくとよい。

⇒ 市民ボランティアの養成人数を成果指標に取り入れてはどうか。

<石川家住宅の周知・活用に向けて>

⇒ 石川家住宅でも「個人で行ってみよう。」とはならない。いきいきクラブなど団体で巡ることはあるようなので、団体ごとに石川家住宅を訪れてもらうように頼んではどうか。

⇒ 作戦17に関連して、石川家住宅の無料講座はたいへん好評である。ボランティアの講師を増やしていくことによって、市民と共に創っていく施策となるのではないか。

<学校図書館の蔵書率について>

⇒ 学校図書館の蔵書率が100%となっているが、内容についてはふれ

	<p>られていない。古い本もあると思うが、古くても価値ある本を見極めながら、新しい本との入れ替えを順次進めていくべきである。</p>
<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>⇒ 生涯学習講座は、夜間講座を増やしたもののまだ働く市民の声に答えきれてないことがうかがえる。したがって、今後は夜間のみならず、土曜日、日曜日の講座の充実が必要であると考えられる。</p> <p>⇒ 市内各地に配置されている公民館など各種社会教育施設とサンライズが連携して、生涯学習講座が市内各地で開催されているような状況をつくりだすことが望まれる。</p>

□課題 ⇒提案

6 教育プラン全体

<p>(1) 平成30年度 年間2回の推進委員会 における各委員からの 意見・提言等</p>	<p>⇒ 教育プランの20の作戦は、左のページに「現状と課題」が記載されているが、平成27年度の内容のままとなっている。最新の内容に変えるべきである。</p>
<p>(2) 平成29年度 教育委員会点検・評価 学識経験者による意見</p>	<p>⇒ 次回アンケートの実施にあたり、「重点施策」に対応するためのアンケート項目を加えてはどうか。例えば、35人学級の実施やトイレのドライ化・洋式化について、保護者、教職員、場合によっては子どもから、満足度や要求度といったことについて調査をすることはできないだろうか。また、すでに学校で実施されている「学校評価（授業評価）」等の活動に加え、本アンケートの実施等により、教職員・保護者・児童生徒の負担が増加していないかどうか、確認しておく必要がある。また、これらの評価活動を、より効率化する方法はないか、検討をすすめてほしい。</p>

□課題 ⇒提案